

Living the LOTUS

Buddhism in Everyday Life



開祖随感

困難が発奮材料

幸福の女神を「ぜひともわが家においでいただきたい」と招いたら、妹の不幸の女神も一緒についてきてしまった、という話があります。幸福もその裏側に落とし穴があるわけです。同じように、不幸も裏返すとそこに幸福の芽が隠されています。

自分では一生懸命に努力しているつもりなのに、人に誤解されたり嫌われてしまうことがあります。精いっぱいがんばっているのに、逆の結果ばかり出ることもあります。それが続くと、だれもが腐ってしまうのですが、私は、みなさんが頭を抱え込むような、真っ青になるようなことが起こると、「いよいよおもしろくなってきたぞ」と、自分に言い聞かせるのです。

自分に不利なことも功德と受け取る。^{ぎやくえん}逆縁も^{ぜんえん}善縁と考えて、努力して解決をめざす。それが仏道修行だと思うのです。

私は若いころ、「あんたは毎日が平穏無事で刺激がないと、のんびりしてしまう。なにか事が起こると発奮する人だ」と言われたことがありました。難題が私には発奮材料なのです。精いっぱい努力をしていれば、必ず見ていてくださる人がいます。かりにだれが見ていなくても、仏さまはすべて^{しょうらん}ご照覧です。それを信じられなくては本物の信仰者といえないと思うのです。

(『開祖随感』9 p. 128-129)

Living the Lotus
2018年9月号 (Vol.156)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124 / Fax: 03-5341-1224

E-mail: [living.the.lotus.rk-international](mailto:living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp)
@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 齋藤高市

編集チーフ: 金尾江利子

校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の經典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。

あらゆる「いのち」に奉仕する

立正佼成会会長 庭野日鑛



感謝し、仕える

私たちは、生きていくために必要な衣食住のそれぞれを、^{ずいじ}随時、手に入れなければなりません。そのことについて、仏教では「正しい生活法によってそれを求めるように」と説かれています。「^{はっしょうどう}八正道」の五番めに掲げられる「^{しょうみょう}正命」のようですが、一般の社会で暮らす私たちにあてはめると、「正しい仕事によって生計を立てる」ということになります。ただ、さまざまな仕事に対して、正しいとか正しくないなどの区別はつけ兼ねることです。すると、「正しい仕事」の「正しい」とは、どういうことなのでしょう。

「農民は作物に^{つか}仕え、牧場主は牛に仕え、教育者は子どもに仕える」といった言葉を教えていただいたことがあります。「仕事」は漢字で「^{こと}事に仕える」と書きますが、仕えるというのは偉大な存在に^{したが}随うことですから、仕事の対象となる相手や物を^{とうと}尊び、^{うやま}敬い、感謝の念をもって、与えられた役割に一所懸命と^{こと}りくむ——そのような姿勢が、「正しい」の意味するところだと私は受けとめています。

また、京都大学の総長を務められた平澤興先生は、「朝には、希望と張り合いをもって仕事をはじめ、夕には、その日の仕事を終わり、感謝をもって、緊張をときほぐし、静かに喜びながら、^{ばんぶつ}万物を^{おが}拝む気持ちになることです」（『生きよう今日も喜んで』／致知出版社）といわれています。あらゆるものを拝む気持ち、感謝の念は、仕事はもちろん、私たちの生活すべてにわたる「正しい」生き方の根本だということでしょう。そして、その気持ちがあれば、不平や不満を抱くことなく、素直に、喜びをもって目の前のことに打ち込むことができるのです。

正しい命の使い方

仕事に限らず、日常生活で目の前のことに一所懸命に尽くすことが、「正しい命の使い方」ということもできそうです。家事や子育てはもちろん、人さまのお世話をすることや、あるいはお世話をさせていただくことさえも、そのときその人に神仏から与えられた、いわば天命^{てんめい}ともいえるお役ですから、それを素直に受けとめて、楽しくつとめることは、「正しい命の使い方」にほかなりません。

「一切の生きとし生けるものは、幸福であれ、安穩^{あんのん}であれ、安楽^{しやくそん}であれ」と、釈尊は願われました。私たちの手に余る大仕事に思えますが、けっしてそうとはいえません。あらゆる「いのち」が幸福になるための貢献が、私たちにもできるのです。私たち一人ひとりが、暮らしのなかの小さなひとコマもおろそかにしないで、「正しい命の使い方」につとめればいいのです。すると、それはやがて大きなうねりとなって、釈尊の願われる世界を築く力となります。なぜなら、私たちはみな、物心ともに世界じゅうのあらゆる「いのち」と、網^{あみ}の目のようにつながっているからです。

ところで、「ハ正道」について考えるなかで、次のような一文を目にしました。「正見^{けん}は実践の始まりであって、また終わりである。つねに正見から外れないようにしなければならぬ」（『原始仏教の生活倫理』中村元／春秋社）。

私たちは「正見^{しょうし}」「正思^{しょうご}」「正語^{しょうぎょ}」「正行」、そして今月の「正命」の各徳目について、一つ一つそれができるかどうかにとらわれがちです。しかし、ものごとをありのままに見る「正見」がすべての基本で、慈雲尊者は「見処^{けんじょ}が正しくなければ、余事^{よじ}はみな黒闇^{やみ}だ」と断言しています。

本会の脇祖・長沼妙佼^{ながぬまみょうこう}先生は、信者さんの救いに徹するなか、「朝寝坊がいけない」などの厳しい指導をされました。仏さまの教えは基本を大事にしてこそ輝き、信仰とは日々の暮らしそのものだということを教えられたのでしょう。九月十日は、その脇祖^{ほうおんえ}さまの報恩会です。

（『佼成』2018年9月号）





救い ― それは慈悲深い久遠の存在への気づき

ロニー・フェイン
タンパベイ拠点

私はアメリカのノースカロライナ州の小さな町で育ちました。

我が家では、若者は教育を受け、礼儀をわきまえ、なんらかの信仰に関する知識を持つことが当然とされていました。

ノースカロライナ州は一般にバイブル・ベルト(聖書地帯)として知られていて、ここでいう信仰とは通常キリスト教のことを意味します。若者が教会へ行くと、礼拝堂の案内、厨房や配膳のサービス、掃除、夏であれば聖書学習会の開催など、多くの活動を担うことが求められていました。

私が近所のイスラム教徒の女性から初めて霊的な気づきをいただいたのは20代になってからでした。それは彼女からの「贈り物」でした。彼女はアラーの教えに安らぎを見出すまで、さまざまな宗教を学んできた経験を話してくれました。そして、私も自分の道を見つけ、自分なりに高次の存在との関係を築く必要があると言われたのです。ひとたびその関係ができれば、その存在に対して自分なりの名前を付けてよいことも、彼女は教えてくれま

した。私はその力を「ユニバーサル・ライフ・フォース」と呼ぶことにしました。

その日以来、私はさまざまな教会へ足を運び、プロテスタント、カトリック、ユダヤ教などの教えを実践してみました。私が安心したのは、ほとんどの宗教が愛・慈悲・平和を実践していることを知ったときでした。それらの実践に自分の生き方を見つけたことは、その後、思ってもいなかった道を歩むことになったとはいえ、私の人生にとってけっして偶然ではなかったと思います。

それは2013年10月のことでした。当時の私は、人間関係のトラブルから深刻な悩みを抱えていました。いったい何の報いでこんなつらい目に遭わなければならないのだろうかと思ひ苦しんでいました。ある日曜の朝、私は断食を思い立ち、その日は食事もとらず電気も使わないようにしようと思いました。そして、心をクリアにする最善の方法としてスピリチュアル・ワークをしてみることにしました。もしこの一日、ものごとから自分を解放すれば、そのお返しにきっと何か霊的なメッセージが得られるのではないかと考えたからです。はたしてどんな知恵が得られるか、そのときはわかりませんでした。瞑想をしながら歩いていると、さまざまなメッセージが頭の中に現れてきました。そして、家に戻ろうとしたそのとき、厳しい口調で「このまま歩き続けなさい」という声が聞こえたのです。その声を聞いた瞬間、私は事物を見抜く特別な力が得られたように感じ、「本当に？」と答えました。すると再び「歩き続けなさい」という声が聞こえてきたのです。言われた通りにすると、数歩も進まないうちにまた声が聞こえ、「おまえの来世には喜びと安らぎがあるであろう」と告げられたのです。それを聞いて、「いまの人生が終われば、天国に行けるのだ」とうれしく思いました。しかし、



タンパベイ拠点で法座に参加する
フェインさん(右から2番目)

まさにその日から私の新しい人生が始まることになるなどとは思いませんでした。

家に帰る途中、私はユニテリアン教会の敷地の前を通りました。そこは立正佼成会のタンパベイ拠点がある場所でもありました。すでにユニテリアン教会の朝の礼拝は終わっていたため、敷地内に入って立正佼成会のメンバーに教団について尋ねると、その場で礼拝に関する案内をいただいたのです。こうして、その日のうちに、それまでほとんど何の知識もなかった仏教の礼拝に参加することになり、宗教を模索する私の旅はその日をもって終わりを告げたのでした。

スピリチュアルな生き方を求めて、私はいろいろな宗教の教義を学んできましたが、仏教は初めてでした。立正佼成会ではニコラス・オズナ師やサンガとの出会いをいただきました。そこで説かれる教えは初めて耳にするものばかりでした。オズナ師は、自分自身の苦とどう向き合ったらよいか教えてくださいました。私はそれまで、自分の苦しみをずっと誰かのせいにしていましたが、苦しみの原因は自分にあったことに気づきました。さらに、オズナ師から「四諦の法門」の説明を聞き、その教えを実践することで自分の苦の原因をつかむことができると教えていただきました。オズナ師のお話とサンガから受けた温かさは、この日を私にとって生涯忘れられない一日に変えてくれました。そしてその日は、私にとって新たな人生の始まりの日となりました。

それからは自分で仏教について調べ、拠点の行事や研修にも繰り返し参加しました。そして2013年11月12日、大きな喜びと安らぎに包まれながら、私はタンパベイ拠点のメンバーとなりました。入会直後オズナ師から、これからRKINAと一緒に新たな布教・伝道が始まること、また彼自身がロサンゼルス教会に異動となったことが発表

されました。私は、彼がいなくなってしまう前にできるだけ多くのことを学んでおかなければならないと思い、拠点のご宝前でのお給仕の仕方や日常生活に活用できる根本義などを教えてもらうことにしました。

拠点がそのまま残るのかどうかわかりませんでしたが、サンガのメンバーたちは今まで通り拠点の活動が維持されることを望んでおり、私たちはそれまで以上に修行に取り組んでいくことにしました。数か月後、オズナ師がタンパベイを離れると、私はサンガのもう一人のリーダーと一緒に根本仏教の研修を受け持つようになりました。仏さまのみこころに沿うように私たちは活動を続けたのです。

オズナ師からご宝前のお給仕の仕方を学び、私はそのお役を任されることになりました。そして、オズナ師が異動になったあと、私は一人、拠点のご宝前の前に残り残されることになりました。そのときのことを、ときどき思い出します。周りの人にもご宝前へのお給仕の大切さをお伝えしたかったのですが、関心を持ってもらえないようでした。がっかりしている私に、RKINAの永田謙師は「あなたは仏さまのために選ばれてここにいるんだよ」とおっしゃってくださいました。そして、一つひとつの大切な仏具に、納得のいくまでまごころを注ぎ、ご宝前の荘厳に誇りを持てるようになるために、自分の時間をどのように使えばよいかお話をしてくださったのです。また、ポジティブな気持ちでお役をさせていただくことも学びました。そうすることで、ご法をお伝えするときにも、ポジティブにお伝えすることができるのです。永田師のアドバイスは私の日頃のものの見方を変えてくれました。

オズナ師が異動するまえ、私はどうすれば教師資格を取得できるかお聞きしました。というのは、オズナ師が不在のとき代わりに儀式儀礼をさせていただきたいと考えたからです。

異動から数ヶ月後、オズナ師から連絡があり、修行をさらに進めていくためにも「法華経上級セミナー」に参加してみませんかとお誘いをいただきました。そのとき私は、自分のためではなく、人さまのためにセミナーに参加したいと思っている自分の気持ちの変化に気づきました。

こうして私はリーダーの一人として、RKINAが実施している数多くのオンライン講座のほかに、二年間の上級セミナーを履修することになったのです。

法華経の教えによって、私は自分の人生で得られたさまざまな教訓に対し、いままでよりも深い理解ができるようになりました。たとえば法華経の「常不軽菩薩品第二十」の常不軽菩薩は、私の人生の中では継父として現れていると思えるようになりました。継父は決して恨みを抱いたり些細なことで怒ったりはしません。そういったことはエネルギーの無駄遣いだと言います。継父のような人が身近にいてくれることや、セミナーでご法の兄弟姉妹に会うことで、人生をどう生きたらよいか、自分を振り返ることができるようになりました。

過去に私は、「自分にはこの人しかいない」と思える男性に出会ったことがありました。しかし、自分の本当の気持ちを彼に打ち明けることはしませんでした。私たちは深い友情で結ばれ、彼も私に対して愛情を感じていると話してくれていましたので、彼はきっと私たちの関係が次の段階に進むのにふさわしい時期を待っているのだと思っていました。やがてその時がやってきたように思ったとき、彼から見せられたのは、彼の新しい、そしてもっと若いガールフレンドの写真でした。いったい私たちのことをどう考えていたのか尋ねると、私が彼に対して特別な感情を持っていたことにはまったく気づかなかったと言われたのです。私は絶望しました。

そんな時、サンガの仲間たちは私に寄り添い、仏さまの教えによってももの見方が変わり、新たな視点から目の前の苦を見られるようになるまで私を支えてくださいました。一年後、その男性と再び話ができるようになったとき、彼が自分の生き方に誠実でいてくれたことに対し、感謝の気持ちを伝えました。彼を思う気持ちが伝わらなかったことは、彼の責任ではないことに私は気づいたのです。

その時から、彼の仏性が常不軽菩薩のように以前よりもはっきり見えるようになりました。仏さまの教えを実践し、内省を重ねることで、私は彼との友情を築きなおすことができ、数年が過ぎた今、私たちはふたたび心を許しあえる友人同士になりました。すべては変化する、とりわけ、しっかり修行すれば成長できるということを、私はこのことを通して確信できたのです。

立正佼成会の教えは私の心に鳴り響きました。特に印象的だったのは、法華経の布教に邁進された開祖さま、脇祖さまに関するお話でした。人さまを救いたいと願う少人数の人たちの集まりが、世界中にその名を知られる立正佼成会に発展したことを思うと、まさに驚きです。

2016年、第4回世界サンガ結集参拝に参加し、はじめて日本を訪れる機会をいただきました。そこでの出会いと経験は本当に感動的でした。世界中から千人以上の会員が参加していましたが、国や背景は違っても、皆さんが本当に教えに献身されていることを感じました。

世界サンガ結集参拝の式典のあとで行なわれた小法座では、開祖さまの秘書を務められた根津益朗師が、私たちの法座に参加してくださいました。すばらしい功德をいただき、根津師と直接お話できたことで、私は胸がいっぱいになりました。この有難い出会いを通して、私は立正佼成会の歴史と、開祖さま、脇祖さまのみこころ

をより深く学ぶことができました。また、本部参拝の中で、他の798人の拝受者とともにご本尊拝受のお手配をいただくこともできました。大聖堂の聖壇に上がらせていただいたことは、言葉では説明できない経験でした。これからの人生を通して大切にしていきたいと思います。

本部参拝を通し、日本にはご法のリーダーたちの夢と希望が息づいていることを知りました。そこで感じた喜びは本当に大きく、もし私が未会員だったとしたら、その場で入会したいと思ったに違いありません。行く先々で仏さまの存在を感じることもできました。私たちに歩むべき道を示してくださった開祖さま、脇祖さまに対し感謝の気持ちでいっぱいです。

オズナ師がタンパベイを離れたあと、拠点への参拝者が激減しました。現地の新しいリーダーとして、私は柔軟な心の大切さを学び、それぞれの修行の道を歩んでいる信者さんから必要とされるとき、常にそこにしようと思いました。ときには、たった一人で一日を終えることもありましたが、そんなときは、自分は努力して拠点に通っているのに、という思いから失望し落胆してしまうこともありますが、その現状こそが私にとって貴重な機会であると受け止められるようになりました。というのも、そうした現状だからこそ自分の時間をすべて拠点での一日に使わせていただけるからです。あたかも仏さまが私だけのためにいてくださるような感じながら、しっかりとお給仕をし、まごころからご供養をあげさせていただいています。たとえ私一人のときも、私たちに連なる先祖のたましいが常に一緒にいてくださり、仏さまと、仏さまの教えを喜んでお迎えしていることを感じます。

最近ではRKINA主催のオンライン・サンガに参加させていただけるようになりました。インターネットを通じて北米各地の広範囲のサンガの仲間たちとつながることで、

修行への励みをいただける大切な機会となりました。いつも法座に参加して他の会員さんたちの実践についてお話を聞けることがとても有難く、まさにそこに共に教えを実践することで幸せを見つけていく立正佼成会の真の価値があるのだとあらためて感じています。

入会以来、私は立正佼成会で学んだ教えから大きな安らぎをいただけてきました。しかし、これはまだ始まりにすぎません。これから仏さまが私のためにどのようなおはからいを用意してくださっているのか、今から待ちきれない思いです。自分の苦しみは自分に原因があることはわかっています。しかし、教えを通して、どうしたら苦しみ体験を新たなチャンスに変えていけるか学ぶことができました。そして、それこそが仏さまの真の慈悲の働きによるものであることを知りました。仏さまがこれまで私にかけてくださった深い慈悲に心から感謝しています。そして、仏さまの次のおはからいがどのようなものであっても、しっかりと受け止めてまいりたいと思います。



2015年のユニティー協会での催しに参加するフェインさん(中央)

無量義經 十功德品第三

法華三部經

各品のあらましと要点



この品には、このお経に説かれた教えを理解し、実践すれば、どんな精神的な功德があるか、どんな善い行ないができるか、どんなに世のため人のために役立つことができるかということが説かれてあります。

まず大莊嚴菩薩が、「この教えはどこから出て、どういう目的へ向かって進み、どこに住みつくのをございましょうか」という質問を申し上げたのに対して、次のようにお答えになります。

「この教えの源といえば、ほかでもありません。諸仏の心の奥から溢れ出たものです。何を目的として説かれたのかといえば、それは一切の人びとに最高無上の悟り(仏の智慧)を求める心を起こさせるためです。また、この教えはどこに住みつくのかといいますと、人びとが菩薩行を行なう、その実践の中にこそ住するのであります」

諸仏の願い

諸仏の心の奥というのは、〈すべてのものの生命を、その本来のすがたのとおり、本来の使命のとおりに生かしたい〉という願いのことです。これは諸仏がもっている根本の願いであって、人間もその諸仏の願いに即して生きていけば悩みもわずらいもないはずですが、わがままな〈我〉にとらわれ、その我執に従って行動するために、みずから苦悩を招いているわけです。

諸仏の悟りとは、〈この世の万物・万象が本来の使命のとおり存在し生きる道を、あらゆる場合に即して悟られたものである〉ということができるのです。

これを人間に即して一言でいえば、〈あるがままに

生きる〉というほんとうの生き方を悟られたわけです。ところが、凡夫にはどうすれば〈あるがままに生きる〉ことができるのか、よく分かりませんので、お釈迦さまは、それぞれの人の場合に応じ、さまざまに説き分けて、それをお教えになりました。それを〈方便の教え〉といいます。

〈方便の教え〉も非常に尊い、ありがたいものがありますけれども、それだけでは、その人の環境や立場に変化が生ずれば、その場の事情にぴたりと当てはまらないことが起こり、当惑することもあります。

菩提心を起こさせる

それゆえ、心ある人は当然、〈いかなる人のいかなる場合にも当てはまる最高無上の真理〉を求める心を起こすことになります。それを〈菩提心を起こ

す〉といいます。この〈無量義〉の教えは、その菩提心を起こすことを目的としているのだとおおせになられているわけです。

実践してこそ真価を発揮する

次に、この教えはどこに住みつくのかというのは、つまり、この教えはどこにいるのがほんとうか、どこにおれば最も真価を発揮するかということです。その住するところは、書物の中でもありません。頭脳の中でもありません。実践の中にこそあるのです。実践してこそ、この教えの生命は発現するということです。

以上の三つのことは、単に無量義の教えばかりでなく、あらゆる大乘の教えに共通の重大な要素ですから、ここでしっかり頭に入れておくことが肝心です。

それから、お釈迦さまは、この教えのもつ十の功德をお説きになるわけですが、中でも次の第一の功德が最も大切です。

〈第一に、是の經は能く菩薩の未だ発心せざる者をして菩提心を発さしめ、慈仁なき者には慈心を起さしめ、殺戮を好む者には大悲の心を起さしめ、嫉妬を生ずる者には随喜の心を起さしめ、愛著ある者

には能捨の心を起さしめ、諸の慳貪の者には布施の心を起さしめ、憍慢多き者には持戒の心を起さしめ、瞋恚盛んなる者には忍辱の心を起さしめ、懈怠を生ずる者には精進の心を起さしめ、諸の散乱の者には禪定の心を起さしめ、愚癡多き者には智慧の心を起さしめ、未だ彼を度すること能わざる者には彼を度する心を起さしめ、十悪を行ずる者には十善の心を起さしめ、有為を樂う者には無為の心を志さしめ、退心ある者には不退の心を作さしめ、有漏を為す者には無漏の心を起さしめ、煩惱多き者には除滅の心を起さしむ。善男子、是れを是の經の第一の功德不思議の力と名く〉

意味はもうよくお分かりのことと思いますが、なぜ《無量義經》の教えにそのような功德があるのかという理由を、よくわきまえておくことが大切だと思います。

妙法蓮華經

序品第一



序品の意義と内容

序品というのは、糸口の章という意味です。これから始まる、非常に長い説法の糸口になる部分です。だからといって、決して内容が希薄なのではありません。そこには、これから説かれるであろう大真理の暗示があります。伏線が秘められています。

はじめて《妙法蓮華經》の説法を聞く人なら、その暗示や伏線を、わけが分からぬままに素直に受け取り、ただ強い印象を感じるだけでいいのですが、このお経を繰り返して学び、人にも伝えようとする人

は、その暗示や伏線をはっきりと認め、それが意味するものをちゃんと知っておくことが必要です。ですから、糸口の章であるからといって、軽く考えてはならないのであります。

さて、《無量義經》の説法を終えられたお釈迦さまは、そのまま深い三昧にお入りになりました。菩薩たちをはじめ、出家・在家の修行者から、バラモン教の神々・人間以外の鬼神までを含む会衆一同が、そのお姿を合掌のうちに仰ぎ見していると、突

然お釈迦さまの眉間にある白毫相(右巻きの白い毛)からパッと一条の光が放たれました。その光は、地球上のすみずみまではもちろんのこと、空のかなたにあるさまざまな世界から、地の底の無間地獄までをくまなく照らしました。

その不思議な出来事に、一同はただ驚嘆するばかりでしたが、弥勒菩薩だけは、いったいどういうわけなのだろうか——と、しきりに小首をかしげました。どうしても分からないので、大先輩であり、智慧のかたまりである文殊菩薩に質問してみたのです。

すると文殊菩薩は、遙か昔におられた日月燈明仏という仏さまの話を始めました。その仏さまのお説きになった教えについても、説明して聞かせました。しかも、驚くべきことには、その仏さまがなくなると、また日月燈明仏という仏さまが出現され、

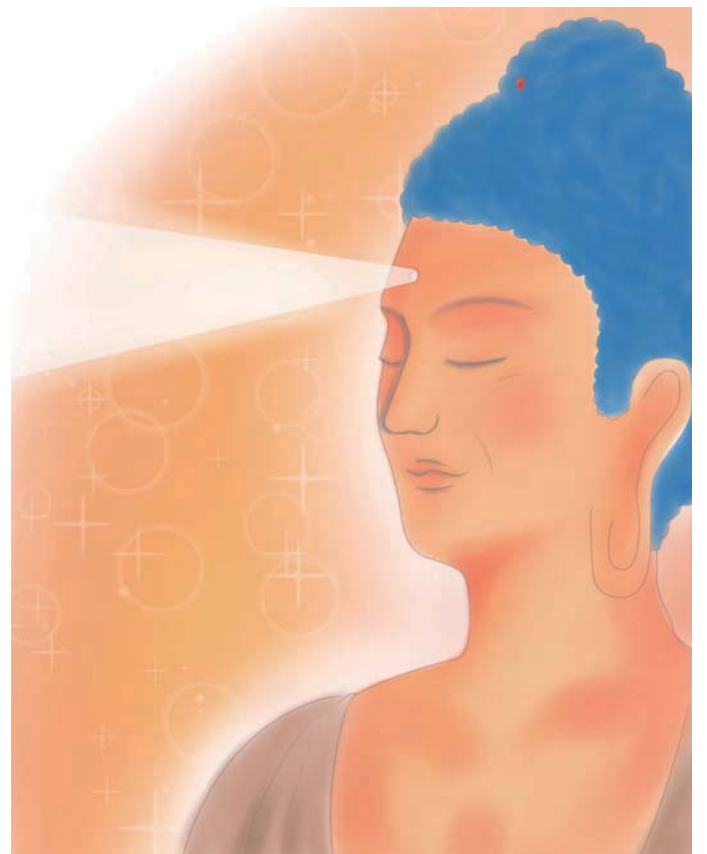
次つぎに二万もの日月燈明仏が出られたというのです。

「その最後の日月燈明仏が、人びとのために〈無量義〉という教えをお説きになってから三昧にお入りになると、いまのお釈迦さまと同じように、眉間の白毫相から大光明を放たれ、無数の世界がくまなく照らされた」……と、文殊菩薩の話は続きます。そして、「その三昧から立ち上がられた日月燈明仏は、妙法蓮華というすばらしい教えをお説きになり、その夜半に入滅された」というのです。

「そういう昔の例によって考えれば、お釈迦さまもこれからきっと、すべての人を救い世の中をほんとうに正しく美しくする妙法蓮華の教えをお説きになるに違いない」と、文殊菩薩が結論づけて、この品は終わりとなるのです。

法華經の形式

このあらすじでも分かるように、法華經は一つのドラマ(劇)のような形に構成されており、その中には、普通では考えられないような不思議な出来事が次つぎに展開されてゆきます。それは、おそらく、お釈迦さまのお説きになった深遠な真理(妙法)をそのまま説明したのでは、当時の一般大衆はどうていついていけなかったために、象徴的な手法と、ドラマという親しみやすい形式をとって大衆の心を揺り動かし、次第次第に妙法へ近づけてゆこうと、このお經の編集者が意図したのだろうと推測されます。先ず、このことを理解しておくことが大切です。



(庭野日敬著『法華三部經 各品のあらましと要点』
佼成出版社, 2016年[初版 1991年], p. 24-32)



Living the LOTUS



正しい命の使い方

皆さんお元気ですか？夏バテしてませんか？今年の日本の夏は、まさに異常でした !!! 「猛暑」という言葉の通りの暑い毎日でした。涼しい秋はまだ遠いのかも知れません。

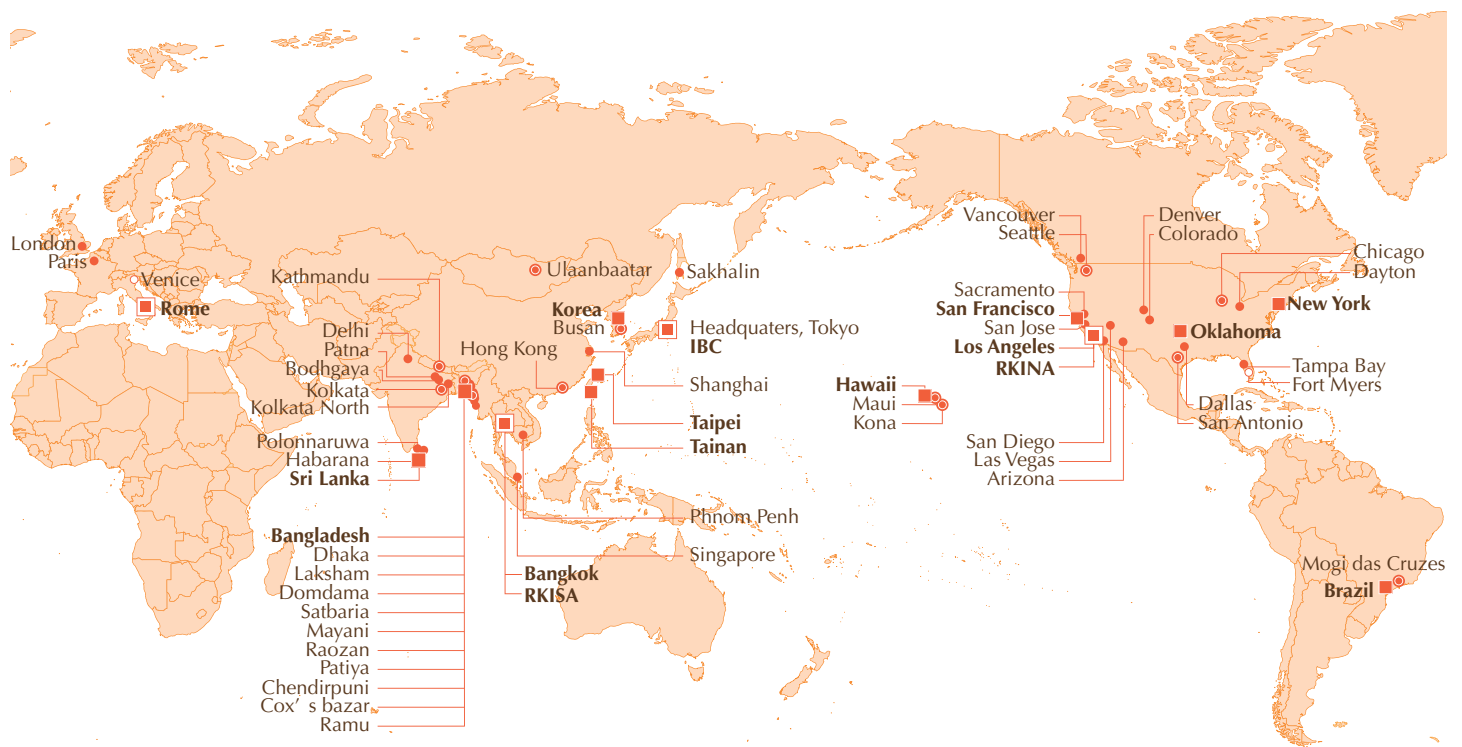
暑い夏というと、12 年前の開祖さま生誕 100 年も「熱い」夏でした。10 月には第 3 回世界サンガもありましたが、8 月には親子三代の家族を含め、70 人程が参加して「北米家族団参」が行なわれました。初めて参加した青年が、「無駄な時間が 1 秒もなかった」と熱く感想を語っていたことを思い出します。

いま、当たり前のように大聖堂のご本仏さまと一乗宝塔を毎日お参りさせていただいていますが、改めて、有り難いことだとしみじみと思います。

「正命」とは、ご宝前を中心に家庭を斉えることとも言えます。尊いご本尊さまに守られ、有り難いみ教えと、素晴らしいサンガに囲まれて生活できることに感謝し、目の前のことに一所懸命取り組ませていただきたいと思います。

国際伝道部長

齋藤 高市



🌸 RISSHO KOSEI-KAI INTERNATIONAL BRANCHES 🌸

✉ Living the Lotus では、皆さんのご意見・ご感想を募集しています。

お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。

E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai Overseas Dharma Centers

2018

Rissho Kosei-kai International

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1124 *Fax:* 81-3-5341-1224

Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First Street Suite #1 Los Angeles CA 90033 U.S.A.
Tel: 1-323-262-4430 *Fax:* 1-323-262-4437
e-mail: info@rkina.org <http://www.rkina.org>

Branch under RKINA

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way,
WA 98003 U.S.A.
Tel: 1-253-945-0024 *Fax:* 1-253-945-0261
e-mail: rkseattlewashington@gmail.com
<http://buddhistlearningcenter.org/>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, U.S.A.
P.O. Box 692148, San Antonio, TX 78269, USA
Tel: 1-210-561-7991 *Fax:* 1-210-696-7745
e-mail: dharmasanantonio@gmail.com
<http://www.rkina.org/sanantonio.html>

Rissho Kosei-kai of Tampa Bay

2470 Nursery Road, Clearwater, FL 33764, U.S.A.
Tel: (727) 560-2927 *e-mail:* rktampabay@yahoo.com
<http://www.buddhismtampabay.org/>

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, U.S.A.
Tel: 1-808-455-3212 *Fax:* 1-808-455-4633
e-mail: info@rkhawaii.org <http://www.rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, U.S.A.
Tel: 1-808-242-6175 *Fax:* 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona,
HI 96740 U.S.A.
Tel: 1-808-325-0015 *Fax:* 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, U.S.A.
Tel: 1-323-269-4741 *Fax:* 1-323-269-4567
e-mail: rk-la@sbcglobal.net <http://www.rkina.org/losangeles.html>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas

Rissho Kosei-kai of San Francisco

1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, U.S.A.
Tel: 1-650-359-6951
e-mail: info@rksf.org <http://www.rksf.org>

Rissho Kosei-kai of Sacramento

Rissho Kosei-kai of San Jose

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016 U.S.A.
Tel: 1-212-867-5677 *Fax:* 1-212-697-6499
e-mail: rkny39@gmail.com <http://rk-ny.org/>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056 U.S.A.
Tel: 1-773-842-5654 *e-mail:* murakami4838@aol.com
<http://home.earthlink.net/~rkchi/>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

<http://www.rkftmyersbuddhism.org/>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

2745 N.W. 40th Street, Oklahoma City, OK 73112 U.S.A.
Tel & Fax: 1-405-943-5030
e-mail: rkokdc@gmail.com <http://www.rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai, Dharma Center of Denver

1255 Galapago Street, #809 Denver, CO 80204 U.S.A.
Tel: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

425 Patterson Road, Dayton, OH 45419 U.S.A.
<http://www.rkina-dayton.com/>

Rissho Kosei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP,
CEP 04116-060 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377
Fax: 55-11-5549-4304
e-mail: risho@terra.com.br <http://www.rkk.org.br>

Rissho Kosei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP,
CEP 08730-000 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377

Rissho Kosei-kai of Taipei

4F, No. 10 Hengyang Road, Zhongzheng District,
Taipei City 100 Taiwan
Tel: 886-2-2381-1632 *Fax:* 886-2-2331-3433
<http://kosei-kai.blogspot.com/>

Rissho Kosei-kai of Tainan

No. 45, Chongming 23rd Street, East District,
Tainan City 701 Taiwan
Tel: 886-6-289-1478 *Fax:* 886-6-289-1488

Korean Rissho Kosei-kai

6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
Tel: 82-2-796-5571 *Fax:* 82-2-796-1696
e-mail: krkk1125@hotmail.com

Korean Rissho Kosei-kai of Busan

3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
Tel: 82-51-643-5571 *Fax:* 82-51-643-5572

Branches under the Headquarters

Rissho Kosei-kai of Hong Kong

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road,
North Point, Hong Kong, Republic of China

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar

15F Express tower, Peace avenue, khoroo-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia
Tel: 976-70006960 *e-mail:* rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Sakhalin

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk
693005, Russian Federation
Tel & Fax: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29-00184 Roma, Italia
Tel & Fax : 39-06-48913949 *e-mail:* roma@rk-euro.org

Rissho Kosei-kai of the UK

Rissho Kosei-kai of Venezia

Rissho Kosei-kai of Paris

International Buddhist Congregation (IBC)

Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1230 *Fax:* 81-3-5341-1224
e-mail: ibcrk@kosei-kai.or.jp <http://www.ibc-rk.org/>

Rissho Kosei-kai of South Asia Division

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai International of South Asia (RKISA)

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218
e-mail: thairissho@csloxinfo.com

Branches under the South Asia Division

Rissho Kosei-kai of Delhi

77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar, New Delhi
110060, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya

Ambedkar Nagar, West Police Line Road
Rumpur, Gaya-823001, Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsilhel, Sancepa-1, Lalitpur,
Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh

#201E2, St 128, Sangkat Mittapheap, Khan 7 Makara,
Phnom Penh, Cambodia

Rissho Kosei-kai of Patna

Rissho Kosei-kai of Singapore

Thai Rissho Friendship Foundation

201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218 *e-mail:* info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei-kai of Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
Tel & Fax: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai of Dhaka

House#408/8, Road#7(West), D.O.H.S Baridhara,
Dhaka Cant.-1206, Bangladesh
Tel: 880-2-8413855

Rissho Kosei-kai of Mayani

Mayani(Barua Para), Post Office: Abutorab, Police Station: Mirshari,
District: Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Patiya

Patiya, sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Domdama

Domdama, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Cox's Bazar

Ume Burmese Market, Main Road Teck Para, Cox'sbazar, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Satbaria

Satbaria, Hajirpara, Chandanish, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Laksham

Dupchar (West Para), Bhora Jatgat pur, Laksham, Comilla,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Raozan

West Raozan, Ramjan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Chendirpuni

Chendirpuni, Adhunagor, Lohagara, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Ramu

Rissho Kosei Dhamma Foundation, Sri Lanka

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
Tel: 94-11-2982406 *Fax:* 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Habarana

151, Damulla Road, Habarana, Sri Lanka

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa

Other Groups

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai